

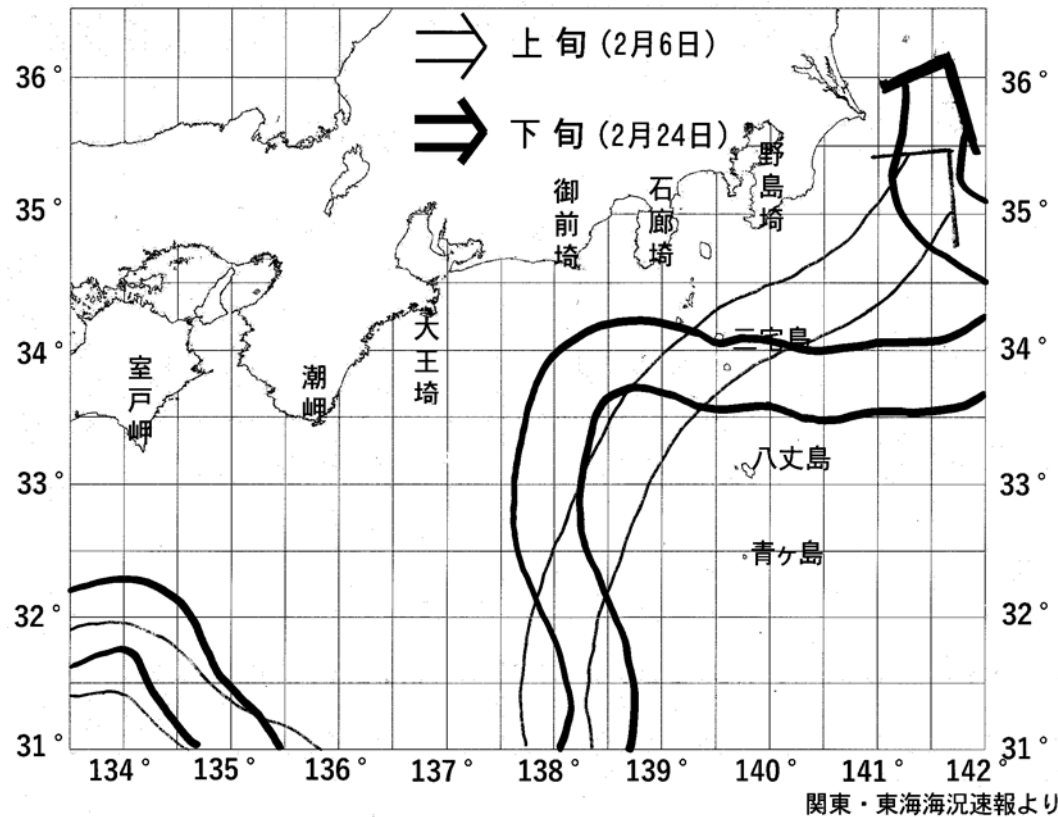
漁海況月報

令和5年2月1日

No. 2 ~2月28日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値 (°C) (下段は平年値*からの偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	14.3	15.2	15.5	16.1	15.2	15.0
	0.2	0.5	1.2	1.7	1.0	0.8
中旬	15.0	15.7	15.6	16.0	15.7	15.3
	1.2	1.2	1.4	1.6	1.4	1.1
下旬	15.1	15.9	15.5	16.2	16.1	15.8
	1.3	1.4	1.3	1.9	1.8	1.8
月	14.8	15.6	15.5	16.1	15.6	15.3
	0.9	1.0	0.3	1.7	1.4	1.2

※平年値：過去30年（平成3年～令和2年）平均値

【黒潮流路】

2月を通じてA型で、大王崎沖で大きく離岸した後、上旬は三宅島付近に、中旬は御前崎沖に、下旬は石廊崎沖まで北上する流路となった。

上旬は大王崎沖で大きく離岸し、大王崎沖 30.5° N 付近から三宅島付近 34.0° N まで北北東に進み、三宅島付近を通過して北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮北縁から熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東西水道に向けて見られた。

中旬は大王崎沖で大きく離岸し、大王崎沖 30.0° N 付近から御前崎沖 33.5° N まで北上した後東進し、三宅島～八丈島付近を通過して北北東に流去した。暖水波及が御前崎沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘に向けて見られた。

下旬は大王崎沖で大きく離岸し、大王崎沖 30.0° N 付近から石廊崎沖 34.0° N まで北上した後東進し、三宅島～八丈島付近を通過して東経 142° N から北北東に向けてS字状に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮北縁から熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東西水道に向けて見られた。

【沿岸域水温】

上旬は伊東で「平年並み」、稲取、下田、沼津、焼津で「やや高め」、雲見で「高め」であった。中旬は雲見で「高め」、それ以外の地点で「やや高め」であった。下旬は伊東、稲取、下田で「やや高め」、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。

【竿釣カツオ】

2月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げは9.5トンで前年同月（1.8トン）の5.3倍であった。魚価は539円/kgで前年同月（278円/kg）を上回った。なお、漁場や魚体サイズは調査ができなかったため不明。

竿釣り（近海+沿岸船）カツオ水揚量（県内主要5港）

期間	水揚量 (トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
R5年 2月上旬	0	0	-	-
中旬	0	0	-	-
下旬	9.5	1	9.5	539
R5年 2月計	9.5	1	9.5	539
R4年 2月計	1.8	2	0.9	278
R3年 2月計	4.1	1	4.1	402

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は1139.1トンで、前年（541.7トン）の2.1倍、平年（230.2トン）の5.0倍で、2月の水揚量として1982年以降最も多かった。また、1か統あたりの水揚量は162.7トン（前年：77.4トン、平年：32.9トン）であった。水揚量の多い漁場は、伊豆山漁場（436.2トン、マイワシ、さば類、スルメイカ）、次いで北川漁場（202.9トン、マイワシ、さば類、ウルメイワシ）であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁の表のとおりで、マイワシは1080.2トンで、前年比3.5倍、平年比25.1倍で、全水揚量の95%を占め、2月の水揚量として1982年以降最も多かった。さば類は24.8トンで、前年比17%、平年比83%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは17.5トンで、前年

比47%、平年比2.7倍であった。ゴマサバは7.3トンで、前年比7%、平年比31%であった。スルメイカは7.5トンで、前年比12%、平年比30%であった。イサキは5.5トンで、前年比16.4倍、平年比23.8倍で、2月の水揚量として1982年以降最も多かった。ブリは4.5トンで、前年比20.5倍、平年比24%で、銘柄ぶりとわらさが主体であった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)とおりで、各漁場の水揚量の割合は、マイワシでは伊豆山漁場が39%(421.0トン)、北川漁場が18%(197.9トン)、川奈漁場が18%(189.0トン) さば類では伊豆山漁場が43%(10.7トン)、スルメイカでは富戸漁場が40%(3.0トン)、谷津漁場が20%(1.5トン)、川奈漁場が16%(1.2トン)、イサキでは谷津漁場が97%(5.3トン)で、そのほとんどが2月12日に漁獲されるという特異的な状況であった。ブリでは谷津漁場が50%(2.2トン)、古網漁場が26%(1.2トン)であった。

*平年：昭和57年～令和4年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マイワシ	1080.2	3.52	25.07	伊豆山、北川、川奈
さば類	24.8	0.17	0.83	伊豆山
スルメイカ	7.5	0.12	0.30	富戸、谷津、川奈
イサキ	5.5	16.4	23.8	谷津
ブリ	4.5	20.53	0.24	谷津、古網

[サバたもすくい]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい主体で操業し、漁場は千波に形成された。水揚量はマサバ112トン(前年同月23%)、ゴマサバ446トン(前年同月比12.1倍)であり、1隻あたり水揚量はマサバ3.5トン(前年同月比12%)、ゴマサバ13.9トン(前年同月比6.6倍)であった。

平均単価は、マサバは290円で前月(328円/kg)を下回り、前年同月(121円/kg)を大きく上回った。ゴマサバは205円で前月(212円/kg)並となり、前年同月(100円/kg)を大きく上回った。

水揚物の体長組成は、マサバは36cm、ゴマサバは33cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(棒受網・たもすくい漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		平均単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R5年2月上旬	10	229	6	12	0.8	19.1	349	213	千波
中旬	39	128	5	10	3.9	12.8	349	214	千波
下旬	63	89	4	10	6.3	8.9	245	169	千波
R5年2月計	112	446	15	32	3.5	13.9	290	205	千波
R4年2月計	488	37	8	17	28.7	2.2	121	100	利島
R3年2月計	618	82	11	32	19.3	2.6	96	111	大島千波、利島

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、沼津港では745.5トン(前年同月60.3%、平年同月比78.8%)、小川港では275.3トン(前年同月比36.1%、平年同月比62.1%)、伊東港、静浦港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港いずれも水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは1,047.3トン、カタクチイワシは0.01トンであった。
*平年：過去5か年(平成30～令和4年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

2月 2日	～	2月 3日	地先定線観測調査	(2日間)
2月 6日	～	2月 7日	さば類音響調査及び標識放流調査	(2日間)
2月 10日	～	2月 10日	ドックへ回航	(1日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

